

# 新しい研修制度について

「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針(文部科学省)」より

宮崎県教育委員会

教育公務員特例法の一部改正に伴い、「新たな教師の学び」を実現する観点から、令和5年4月1日より、新しい研修制度が始まります。

## 「新たな教師の学び」を実現する5つのポイント

※ 「新たな教師の学び」・・・環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら個別最適な学び、協働的な学びにより、教職生涯を通じて学び続けること。

### 1 教師に求められる資質能力の再整理

#### 【旧教員育成指標】

- ①教員としての基本姿勢
- ②授業力
- ③児童生徒理解・指導力
- ④学校経営や組織への参画・貢献

#### 【新教員育成指標】

- ①教職に必要な素養
- ②学習指導
- ③生徒指導
- ④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応
- ⑤ICTや情報・教育データの利活用

資質能力について5つの柱で再整理されました。



### 2 「研修履歴」を活用した指導助言等※1



校長は、研修履歴を基に対話を通して指導助言等を行います。



※1・・・詳細はQ & Aに記載【1】

### 3 校長に求められる資質能力の明確化

- ★人材育成能力（教職員の資質向上）
- ★アセスメント能力（情報についての収集・整理・分析し共有）
- ★ファシリテーション能力（学校内外の関係者の相互作用により学校の教育力を最大化）等

校長も育成指標に基づいて研修を受講します。



### 4 校内研修・OJTの活性化※2

今日の○○という発問は、◆◆にしてみてもうかな？



▲▲の教材提示は、とても効果的だったね。

□□科の板書を●●科で置きかえるとどうなるかな？

お互いの授業を参観し合い、批評し合うことを含めた校内研修の活性化が求められています。

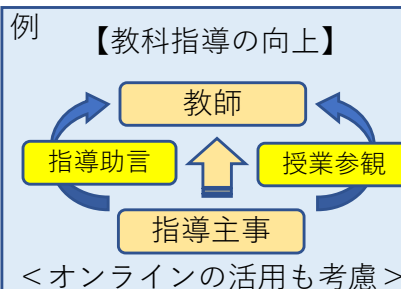


※2・・・詳細はQ & Aに記載【2】

### 5 研修成果の設定及び効果的・効率的な実施体制

研修の受講  
(インプット)

研修後の成果確認  
(アウトプット)



オンデマンドやオンラインを組み合わせた効果的・効率的な研修体制が大切です。



詳しくは、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」及び「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」（いずれも文部科学省）を御参照ください。

# 「研修履歴」の作成及び「研修履歴」を活用した指導助言等（Q&A）【1】（案）

「新たな教師の学び」を実現するための仕組みとして、①研修履歴を作成すること ②研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言等に関する規定が整備されました。

## Q1 「研修履歴」の対象となるのは？

校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭が対象です。（臨時的任用講師等については、研修履歴を活用することは前提とせず、対話に基づく受講奨励を行います。）

## Q2 いつからの「研修履歴」を記録するの？

原則、令和5年4月1日以降に受講した研修を記録します。

詳細は追ってお知らせします。

## Q3 「研修履歴」に記録するのはどんな研修？

★必ず記録する研修は次のとおりです。

- ①研修実施者が実施する研修  
（県教育研修センター、宮崎市教育情報研修センター、県教育委員会（教育事務所を含む）が主催する研修）
- ②大学院修学休業により履修した大学院の課程等  
（例：教職大学院（教職実践開発専攻））
- ③任命権者が開設した免許法認定講習及び認定通信教育による単位の修得

★その他に、任命権者が必要と認める研修<sup>※1</sup>も記録することができます。

※1・・・市町村教育委員会等が実施する研修、学校現場で日常的な学びとして行われる一定の校内研修・研究等、教師が自主的に参加する研修等

## Q4 何を記録するの？

次の①～⑦を記録します。

- ①受講年月日
- ②研修名
- ③主催者
- ④場所
- ⑤形態（対面／オンライン等）
- ⑥育成指標との関係<sup>※2</sup>
- ⑦振り返り・気付き

例	受講年月日	研修名	主催者	場所	形態	育成指標 <sup>※2</sup> との関係	振り返り・気付き
	令和5年 11月19日	ICT活用研修	県教育委員会	研修センター	対面	2-③ 5-①	等積変形を動画で提示すると大変分かりやすい。早速、明日の授業で活用してみたい。

※2・・・育成指標については別紙参照

## Q5 「対話に基づく受講奨励」はどのように行うの？

目標設定ミーティング、中間ミーティング、フィードバック面談などの機会に、校長等<sup>※3</sup>が研修履歴に基づいて行います。

なお、校長については、服務監督権者である教育委員会等が行います。

研修記録者	校種等	指導助言者	時期（例）
教諭等及び 教頭、副校長	小・中学校等	校長等 <sup>※3</sup>	●目標設定ミーティング（5～6月） ●中間ミーティング（8～10月） ●フィードバック面談（12月～1月） （ただし、本制度と人事評価制度とは分けて考える）
	県立学校		
校長	小・中学校等	市町村教育委員会	
	県立学校	県教育委員会	

※3・・・校長の指示のもと、当該学校の規模や状況に応じて、副校長や教頭、主幹教諭などが面談を行い、校長に報告することも可能とする。

令和6年度以降は、国が構築する研修受講履歴記録システム（仮称）を活用して記録する予定ですが、それまでは教職員評価シート内の「研修履歴記録シート」に記録してください。

# 校内研修・OJTの活性化（Q&A）【2】（案）

「校内研修の活性化」とは、**校長先生のリーダーシップ**の下、各学校の**教育的課題**に対応した**協働的な学び**を**学校組織全体**で行い、その成果を**教職員間で共有**することにより、**学校の組織力**が高まり、**効果的な学校教育活動**が実施されている状態です。

## Q1 各学校の教育的課題とは例えばどんなこと？

学校を取り巻く状況については、次のようなことがあげられます。

### 【教職に必要な素養】

- 学校安全への対応
- 幼児教育と小学校教育の接続
- 小中一貫教育及び中高一貫教育等の学校段階間接続等への対応
- 保護者や地域との連携・協働体制の構築

### 【学習指導】

- 小学校における外国語教育
- STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

### 【生徒指導】

- 進路指導及びキャリア教育への対応
- いじめ・不登校などの生徒指導上の課題への対応
- 貧困・虐待などの課題を抱えた家庭の児童生徒等への対応
- 外国人児童生徒等への対応 ● 道徳教育の充実

### 【特別な配慮や支援を必要とする子供への対応】

- インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた発達障がいのある児童生徒等を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応

### 【ICTや情報・教育データの利活用】

- 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データ利活用

変化し続ける社会や学校現場からの要請に的確に応えられるよう、これらの変化に対応した教員の**資質能力の向上**が求められています。

## Q2 協働的な学びを学校組織全体で行うとは？

例えば・・・



お互いの授業等を参観し合い、批評し合います。

「経験を振り返ることを基礎とした学び」



「他者との対話から得られる学び」

組織の向上

蓄積

### 【教科指導】



教科等を越えた教員同士の学び合いの機会を設定することも有効です。

## Q3 効果的・効率的な実施方法とは？

研修の内容・態様に応じて、これらの方法を適切に組み合わせます。

対面・集合型で行われるもの

同時双方向型のオンライン

オンデマンド型のオンライン

多様な機関が研修コンテンツを作成しているので、効果的に活用することで、個別最適な学びの実現へとつながります。

- 教育委員会 ○独立行政法人教職員支援機構
- 大学・教職大学院 ○民間企業等

## Q4 本年度（令和4年度）中にしておくことは？

★次年度の校内研修計画を作成※する。

例：年7回

- ①コミュニケーション能力研修（5月）
- ②ICT活用研修（7月）
- ③コンプライアンス研修（8月）
- ④特別支援研修（9月）
- ⑤⑥授業研究会（6・11月）
- ⑦いじめ不登校対策研修（1月）

★活用可能な各機関の研修コンテンツの事前調査を行う。

参照例：独立行政法人教職員支援機構「校内研修シリーズ」

<https://www.nits.go.jp/materials/intramural/>

：独立行政法人教職員支援機構「新たな教師の学びのための検索システム」

<https://kensaku.nits.go.jp/>

：宮崎県教育研修センターチャンネル－YouTube

<https://www.youtube.com/@user-ud5jp7mu5o/videos>

★各学校の実状に合わせて、研修に関する**中核的な役割**を担う職員を明確にして、研修環境を整える。（研修主任等を位置付けることも可）

※校内研修が計画的に行われていない学校は、必ず校内研修を位置付けます。

既に学校の教育的課題に向けた研修が行われている学校では、継続して組織的・計画的に校内研修の活性化を図っていけばいいですね。

